

支店長の わがまち紹介 第59回



逆井城跡公園

坂東市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県坂東市です。岩井支店長が坂東市長 木村敏文氏にお話を伺いました。

坂東市は「筑波経済月報」第11号（2014年6月）第11回本コーナーにて紹介させていただきました。改めまして、本市の魅力や特徴についてお聞かせください。

■住宅敷地面積が広く、3世代同居率が高いまち

本市は自然環境の豊かさもあり、3世代の同居率が非常に高いまちです。住宅敷地面積が1,000㎡を超える家が多い本市では、1つの敷地に何棟もの家があり、3世代同居といっても、それぞれの家に親、子供、孫の世帯が住んでいる場合が非常に多いのが特徴です。「スープの冷めない距離」という表現がありますが、本市にはまさにこの距離感で暮らす家庭が多くあります。

■自然災害の少ないまち

本市の人口は、自然減があっても極端な社会減はありません。鉄道もなく、圏央道が整備される前は、取り立てて交通の便がよいわけでもなかつ



坂東市長
木村 敏文氏



岩井支店長
鴨川 武志

た本市において、人口流出が比較的少ない要因は、自然環境が豊かで可住地面積が広いというだけでなく、本市の住みやすさにあると感じています。

各地の大雪や豪雨などによる災害状況をみると、低地では被害を受けたところもありますが、本市は自然災害が比較的少ないまちであるといえます。

かつて本市は扇状地であり、水に押し流されて平地になったと考えられていますが、中でもこの地域は丘陵地帯に位置し、狭島と呼ばれる狭い島状の高台でした。この台地が生み出した肥沃な土壌で栽培されたのが「さしま茶」です。濃厚な香りと

コクを特徴とするさし茶は、江戸時代、日本で初めて海外輸出に成功した日本茶として名声を博した、本市の特産品です。

また、現在の米どころである飯沼地区は、その昔巨大な沼地であり、江戸時代から開拓・開発が始まりましたが、構造的な排水不良や利根川の河床上昇による逆水流入など、人々は絶えることのない水害に、幾度となく悩まされてきました。以後、明治・大正・昭和に行われた様々な改良事業や耕地整理により、現在の災害の少ないまちとなりました。



飯沼地区

「坂東郷土館ミュージズ」では、本市の歴史や文化に関する展示をはじめ、本市にゆかりのある作家の美術作品の展示、併設する天体観測ドームでの天体観望会（要予約）などを行っています。

水と戦った300年の歴史も、「飯沼新田物語～水との苦闘三百年 豊作を夢見た先人たち～」と題した合併10周年の記念企画展で、多くの方々に紹介することができました。（平成27年10月3日～12月27日）

今後も本市と関わりのある様々な企画展を実施してまいりますので、ぜひご来場いただき、本市の歴史や魅力を知っていただきたいと思います。



坂東郷土館ミュージズ

■圃場整備でさらなる農業の発展へ

本市の基幹産業は農業です。岩井地区の夏ねぎとレタスが銘柄産地、猿島地区の冬春トマトと春白菜、岩井地区のトマトは銘柄推進産地として指

定を受けています。

しかし、近年、農業は大規模でないと生き残れないという課題が発生しています。そのため、現在、本市では、畑地帯総合整備事業^{*1}（以下、「畑総」という）による圃場整備を進めています。既に整備が完了した畑から計画中の畑まで含めると9カ所に上ります。水田の圃場整備は珍しいことではありませんが、本市ほど畑の圃場整備に力を入れているまちは、県内では他にないと思います。

畑総は優良農地に指定され、8年間は転用できないという条件がつきますが、土地が1カ所に集約されることで使い勝手がよくなり、作業時間の短縮にもつながります。

既に整備された畑は、その殆どが霞ヶ浦用水の受益地になっています。畑地の中に灌漑設備が整備されるので、干ばつ時には霞ヶ浦用水を利用することができます。また、全圃場に勾配が付いているため、排水性に優れ、大雨が降っても高品質の農産物を安定的に生産・供給することが可能です。

昨年10月、本市ではかなりの降水量を記録しましたが、圃場整備を行った地区では比較的安定した出荷をすることができました。特に11月以降の葉物野菜については、今年の春先まで高値で推移したところでした。

また、畑総は、農業の後継者離れの防止にもつながっています。大規模農家として生き残りをかけて法人化した方もいて、若手農業後継者が活躍できる場となっています。



畑総により整備された農地

■宿題塾の取り組み

若い人たちが夫婦ともに働くことを望んでいるためか、ここ数年、放課後児童クラブの需要が急速に高まっています。この声に応えるため、本市では整備に向けて取り組んでいますが、まだ十分な対応ができていない状況です。課題としては、指導

*1. 区画整理、農道、用排水施設などの基盤整備事業を効率的に組み合わせを行い、農作物の品質や収量を高めたり、生産コストを低減することで、農業経営の向上と安定を図る事業。さらに、集落環境整備も行うことで快適な生活環境を実現させることもできる。

員の人材の確保が非常に難しく、人手不足が深刻になっていることです。今後も、人材の確保と受入体制の整備に重点を置き、待機児童の解消に努めていきたいと考えております。

また、高学年の子どもたちの居場所づくりとして、放課後子ども教室「宿題塾」を設置しています。宿題塾では、学習や文化活動、異なる学年、異なる学校の児童同士が交流を図るレクリエーション活動などを通して、子どもたちの健やかな成長を支援しています。

元教諭などの指導員が子どもたちの自主的な学習を補助する形で、基礎学力の向上を図っているほか、郷土史や自然などを専門とする先生を招き、本市の歴史や自然について学ぶ時間も取り入れています。

さらには、季節に応じて、栗拾いや芋掘り、柿狩りをはじめとする自然体験学習や、公民館を利用してお菓子作りなど、子どもたちが様々なことを楽しく学べる工夫をしています。



宿題塾の様子

今後の展望に向けてお聞かせください。

■「みんなでつくろう やすらぎと生きがい 賑わいのある都市(まち)坂東」を目指して

市長に就任したこの1年間は、本市の実情をお知らせしようと、市民や議会に意見を求めながら、各事業を軌道修正しつつ、オープンな情報開示と慎重な舵取りに気を配り、無我夢中で市政を運営してまいりました。

今、全国の市町村では、どのようにまちを活性化させるのか、賑わいを創出するのかが課題になっていますが、本市も同じです。自らのギアを前進にするのか、ニュートラルにするのか、どの事業に力を入れるのかを選んだ中で、費用対効果を精査しながら進めていく必要があります。

県内における若年層の人口増加は、つくば市、つくばみらい市、守谷市の3市であり、「少子化・高齢化」は現実として受け入れざるを得ない状況です。そのため、若い人たちがUターンし、結婚・出産・子育てができるような地域づくりを目指す必要があります。そこで本市は少子化対策の一助として、昨年12月から市独自の「すこやか医療費助成制度」の助成対象者を、これまでの15歳から18歳に拡大しました。

国は幼児教育無償化を目指しており、本市でも教育の充実を掲げています。子育てを安心して行うためには、非常に重要なことであると考えています。

その1つとして、小学校のエアコン整備事業があります。平成29年度の国の予算で、100%ではないものの補助をいただけることになったので、間もなく発注する予定です。また、給食費の段階的な無償化にも取り組んでおり、今後、さらに内容を拡充してまいります。

圏央道の開通効果により、輸送時間の短縮が図られるなど、圏央道沿線地域は魅力ある工業立地地域として発展しています。そのため、坂東インター工業団地では、一部上場やそれに類する企業との契約が順調に進んでいます。残りの区画についても早期完売を目指し、積極的に企業誘致に取り組んでまいります。

本市は「みんなでつくろう やすらぎと生きがい 賑わいのある都市(まち)坂東」の将来像を目指し、これまでの慣習にとらわれることなく、新たな意識と勇気を持って、今後も市民の皆さまと共に歩んでいきたいと考えております。

■筑波銀行に期待すること

いつも非常にきめの細かいアドバイスや情報提供をしていただいております、大変心強く、とても感謝しております。

今後も社会状況に応じ、市民の商売の方向性などにアドバイスいただくとともに、地域に密着した金融機関としてご支援いただきたいと存じます。

また、工業団地が本格稼動した際には、次のステップに向けた対策・アイデアなどをご教示いただけますようお願い申し上げます。

取材日：平成30年3月20日
写真提供：坂東市